

千曲市地域防災拠点・道の駅基本計画（案）に対する意見（パブリックコメント）
今後の方向性：令和8年度中に基本計画の内容精査・再検討行う

意見の件数：82件（19名、1団体）

■道の駅の位置付け・必要性

	意 見	回答・今後の方針
1	計画や説明等実状を知り、様々な観点から考える中で、現時点の計画のまま多額の費用をかけて整備するには、課題が多いのではないかと感じるようになりました。 また、屋代インター周辺に関する話し合いにも参加させていただく中で、市民の方々から「このような施設があればよいのではないか」といった同じような要望が多く聞かれました。立地条件や集客の可能性を考えますと、屋代インター周辺の方が、より多くの人が訪れ、地域にとって有意義な施設につながる可能性があるのではないかと感じております。子どもたちの未来のためにも、中途半端な施設を作るのではなく、地域にとって本当に価値のある施設づくりをしていただきたいという思いから、現在計画されている八幡地区での道の駅整備につきましては、反対の意見を述べさせていただきます。	道の駅整備箇所の選定については、地域防災拠点としての位置づけも重要なことから、浸水想定区域外であり、土砂災害の危険度も低く、緊急輸送道路である国道18号を坂城更埴バイパス沿線である八幡地区を最適地といたしました。 道の駅基本計画(案)では子育て世代を含む地域住民の日常の居場所としての施設整備も計画しており、また集客面においても、道の駅の目的地化が図られ持続可能な施設となるよう進めてまいります。
2	千曲市地域防災拠点・道の駅基本計画（案）について、現段階での整備には慎重な再検討が必要と考え、以下の意見を提出いたします。 人口動向と財政状況を踏まえた投資判断についてです。千曲市の人口は平成16年の約6万4千人をピークに減少傾向が続き、現在は約5万8千人規模となっています。今後も減少が見込まれており、生産年齢人口の縮小は地域経済と税収基盤の弱体化につながります。また、財政力指数は類似団体平均を下回る水準で推移しており、新たな大型公共施設整備は将来的な維持管理費を含め、市財政に長期的な負担をもたらす可能性があります。人口減少局面においては、「新設」よりも既存公共施設の機能強化や更新を優先すべきではないでしょうか。	当市は千曲川が市の中心を流れ、市街地のほぼ全域が浸水想定区域となっており、令和元年東日本台風では大きな被害を受けたことから、浸水想定区域外での防災拠点の整備は急務であり、市総合計画においても地域防災拠点(防災道の駅)の整備を進めることとしております。道の駅については維持管理費を含め、市財政に長期的な負担とならないよう民間活力の導入など持続可能な施設となるよう進めてまいります。 なお、既存施設につきましては公共施設総合管理計画に基づき適正管理と有効活用の推進に努めております。
3 4	・本計画および施設建設に対する断固反対の表明 本計画案において、八幡地区を中心に「道の駅」を核とした大規模な複合施設を建設することに対し、一市民として、また納税者として、断固反対の意を表明いたします。市の提示した基本計画資料を拝見いたしました。既存の観光資源との整合性、将来にわたる事業の持続可能性、および市民の生活実態への配慮という点において、多額の公費を投じる妥当性が極めて乏しいと言わざるを得ません。以下に、本建設を白紙撤回すべき具体的な根拠を述べます。 ・結論:建設の白紙撤回と次世代への責任 現在の計画案は、中心市街地を活性化させたいという「結論ありき」の議論で進んでおり、現場の農業実態、子育て世代の金銭的ハードル、そして税金の効率的な活用という視点が欠落しているように思います。「賑わい」という曖昧な言葉のために、将来の市民に多額の維持管理費という負の遺産を押し付けるべきではありません。今、千曲市がなすべきは、この無謀な建設計画を直ちに白紙撤回し、既存施設の有効活用と、真に身の丈に合った持続可能な施策への転換していただきたいと強く願います。	道の駅基本計画(案)については、防災拠点としてのあり方や事業の採算性、地域(住民・学生・団体等)との連携など持続可能で地域に必要な施設となるよう、現計画案の見直しを行います。
5	道の駅を先に作る意味ありますか?上田と繋げてからでいいのでは? そもそも駐車場だけデカくて売り場無さすぎませんか? 白鳥園なども縮小されて大変で、スーパーにも農家さん出してますよ?農家さん集めるのどうするんですか? 一年間大量に野菜を出すってどんな規模かご存知ですか?普通に利益ないと思います。 子育てスペースって…狭すぎませんか? 道の駅作ってお金あるなら保育園何個建つんですか?保育園児に暑いのに金がないと温風しか来ないやつで我慢させて… 耐震性問題ないと言い張るものの…その耐震問題ないっていつの話?年月日見ればはるか昔です…	道の駅基本計画案については、令和8年度に現計画案の見直しを行う予定です。いただいたご意見も踏まえ、検討してまいります。なお、保育園の改築や空調設備の整備については、公共施設総合管理計画に基づく適正管理に加え、子供たちが快適に過ごせるよう環境整備に努めてまいります。

■コンセプト

	意 見	回答・今後の方針
6	・一体型なのか、単独型なのか 一体型を目指すのであれば国交省の認定が必要である。その交渉は行っているのか、認定が決まっていないのになぜ、基本計画を策定するのか。 令和6年度の当初予算に審議会を設置する費用9,5千円、交通量や必要かどうかの調査費用100万円が計上されていたが実施されなかった。「基本構想は調査をさせていただいてから考える」答弁であったが後に、補正予算で「基本構想」を策定し、今回「基本計画」を策定している。なぜ調査や国・県・市及び有識者等での検討委員会などを設置し道路管理者と検討しないのか。 佐久穂高原 道の駅 の例（一般質問の答弁から） 道の駅の計画が町民に公表されない理由は「国交省が定める道の駅の基本コンセプトは地域の創意工夫により道路利用者に快適な休息と、多様で質の高いサービスを提供する施設で、基本として休息機能、情報発信機能、地域連携機能を備える施設とされています。国交省の認定を受けるためには求められる要件を満たさなければなりません。一体型と整備するには道路管理者から計画を認めてもらわなければなりません。その要件をクリアできる見込みが立たない段階での情報提供は差し控えていただきます。 そうした国・県との協議を通じて施設を一体型として調整する方向や広域的な地域振興機能、防災機能を強化することで道の駅としての認定を得ながら、全体的方向性が事務レベルで国・県に認知されたことによります。道の駅については皆様の関心が高いと未確定の情報を流すことでイメージが作られてしまうことは避けるべきだと考えております。	国との協議では現状での一体型整備は難しいが、引き続き一体型整備について要望してまいります。 推進協議会(消防、商工団体、福祉団体、観光団体、農業団体、地域住民等)にて検討を行いました。国・県関係者等には別途協議。 道の駅基本計画(案)の見直しの中で改めて関係機関等と協議してまいります。
7	・地域防災拠点・道の駅の名称ではない 地域の防災拠点の内容は現在の避難所・避難場所に設置すべき設備である。あえて「地域防災拠点」と名付ける必要はない。「千曲市道の駅」が良い。	災害時に救援活動や復旧、復興活動の拠点となる防災拠点の整備は必要であり、千曲市地域防災計画においても八幡地区への整備を検討するとしています。地域防災拠点・道の駅の防災機能については、道の駅基本計画(案)の見直しの中で改めて検討してまいります。 なお、道の駅の正式名称についてはまだ決まっておりませんので、ご意見としてお聞きします。

○国交省認定の「防災道の駅」 災害発生時に地域住民の避難場所や救援活動の拠点となる道の駅です。通常の道の駅の機能に加え、耐震化された建物、無停電設備、通信手段、水の確保など災害時でも機能し続けるための設備が強化されます。 (主な役割) ・広域防災拠点 自衛隊、警察、緊急災害派遣隊などの救援活動の拠点 ・物資の中継基地 緊急物資の配分や輸送の中継地点 ・避難場所 地域住民や道路利用者の安全な一時避難場所 ・復旧・復興拠点 災害からの復旧・復興活動の支援拠点 (設備機能) ・通信手段の確保 災害時の情報伝達が可能 ・2,500㎡以上の駐車場を確保し支援活動スペースとして活用 現在ある道の駅を認定してもらうためにエントリーし、国交省が都道府県に1～2カ所を選定、長野県は道と川の駅(上田市)、道の駅 小坂田公園(塩尻市)がある。 ○千曲市の「道の駅」変化 ・平成22年度「国交省情報ステーション」があるため「道の駅」は難しい、18号バイパスが開通したら川西地区に考えたい(歴代市長) ・平成28年度の請願「八幡地区に道の駅設置」は「道の駅」の推進 ・平成30年度「第三次国土利用計画」は「道の駅」の推進 ・平成31年度「都市計画マスタープラン」は「道の駅」の推進 ・令和2年度の西部地区道の駅推進期成同盟会の請願「国交省認定防災道の駅」 ・令和2年度「千曲市防災計画」は「国交省認定防災道の駅」 ・令和4年度「第三次千曲市総合計画」は「国交省認定防災道の駅」 ・令和5年度「国交省認定防災道の駅」は断念、「地域防災拠点」と「地域振興施設」に考え方を変更(通常の道の駅) ・令和6年度「地域防災拠点・道の駅基本構想」は「道の駅」 ・令和8年度「地域防災拠点・道の駅基本構想」は「道の駅」 このように変化しているため、市民も議員も理解しづらい。正確な説明を。	様々な面からのご意見ありがとうございます。全てのご意見やご指摘にお答えすることは難しいですが、道の駅基本計画(案)については、市の上位計画や基本構想、パブリックコメント等のご意見も踏まえ、再度検討し見直しを行います。
○1・3 基本理念・コンセプト 防災機能の施設は現在の避難所・場所に設置すべき施設で防災力を高めるものではない。避難所・場所は八幡小学校、治田小学校、更埴西中学校、第一学校給食センターなどである。これらの千曲市防災計画に記載されている避難所・場所に設置すべきである。新しい公共施設はこうした防災施設は通常的に必要なもので特記すべきではない。道の駅には3つの基本機能がある。休憩機能、情報発信機能、地域連携機能だ、休憩機能が抜けている。 【観点1 地域防災力の強化】 → ドライバーが安全に休憩できる場 24時間無料で利用できる駐車場やトイレを備え、ドライバーが安全に休憩できる環境を整備します。 ・地域防災拠点として利用可能なフェーズフリーに活用することで、防災意識の高揚と災害時の円滑な運用につなげます。 → 普段利用している商品やサービスを災害時にも役立てるという考えだがどのような施設がフェーズフリーなのか、本来個人が災害に備えてキャンプ用品、食品、災害時用のライトやラジオなど多機能な日常品をどのような展示し活用するのか。 → 総合的な防災機能の計画はない、地域の防災機能と謳っているではないか、一時避難所・場所は八幡小学校である、必要ならそこに防災設備を充実させればよい。近くに治田小学校、更埴西中学校、第一給食センターや企業が市と連携している。 ・市内の物資のハブとして災害時には物資の供給を可能とする → 水害が起きるのは川東だとすればどのようにして物資を供給するのか、橋は通行止めになる、ヘリを使うなどできない、避難所・場所に物資の充実を図る方法しかない。 ○3・3 導入機能の整理 → (1)情報発信・情報機能では(1)情報発信(道路交通情報)(2)休憩機能(トイレ、休憩施設、駐車場一部)を載せているが道路管理者が設置するものである、交渉はしているのか。 ・一時的に車で避難するスペースを確保し・・・ → 車を利用して避難するのか、防災訓練を根本的に変えなければならない。川西地区は水害が少ないから設置予定となっているが、避難する必要があるのか、現状の避難所・場所には車で避難することは不可能なのか ・(5)防災機能 一時的な避難や物資の集配拠点としての活用を想定して・・・ → 一時的な避難所・場所は八幡小学校がある。物資の集配機能とはどのように集配するのか、ヘリで空輸するのか、自衛隊の駐屯地などを想像しているのか、県の防災計画に載せてあるのか、こうした記載が勘違いを起こしている、そのための「芝生広場」で1,560㎡の規模で物流拠点としているのであれば考え直す必要がある。 【観点2 地元農産物・特産品の価値を高める”地産地消”の仕組みづくり】 生活必需品(生鮮3品)の販売をすることで地域住民の日常的な利用につながります。 → 青果、精肉、鮮魚の販売は市内に多くあり予定地とされる地域にはツルヤ稻荷山店、あいにー、コンビニなどがあり新たに競争する必要はない。 → 千曲市の人口は長野県内では9位だが農産物の清算額は22位、野菜の産出額は32位、果樹は15位、コメが24位(総務委員会中村恒彦議員)。市はこうした現状を把握しているのか。優良な農産物を生産しているのか、それは何か、リンゴにしても、ぶどうにしても、トルコキキョウにしても、更に杏にしても市は協力的ではないばかりか「千曲ブランド」製品も消滅しかねないほど力が入っていない。道の駅での推進を図るのではなく、根本的に食料関係の政策を進めるべきである。 千曲市はスーパーとして登録している店は11店舗、34,842千㎡を占めている、他にも生鮮品を取り扱っているコンビニ、ドラッグストアが多い。これらの店舗に対抗できるのか、成功したとすれば既存のスーパーは撤退する可能性が高い、かえって地域住民の不便さを招いてしまう。 *地域で経済を生み、生産性を高めていくのは行政ではなく民間。なんでも行政に金を出してもらおうという姿勢でいる限りその地域が活性化することはない。行政も税金で手助けすれば地域で楽に事業ができるという過信を持つと支援なしで事業に取り組んでいる人がその地域からどんどん少なくなってしまう。衰退を招くことになる。	

	【観点3 観光客・住民双方に響く「また来たくなる」魅力の発信】 市の観光に対しては観光局に丸投げの状態、推進会議でも観光局の活発な発言が見られない。この場所に観光情報施設を置く必要性は見当たらない。観光施設は上山田観光会館、あんずの里物産館、あんずの里観光会館、姨捨観光会館、がある。どの様に活用しているのか。ただ千曲市はどのような市で、どのような(観光場所、生産物、魅力など)があるのかを示すあるいは販売する施設は必要である。 ・地域振興の相乗効果を発揮します → 佐野川温泉竹林の湯、姨捨観光会館は共に地域振興を目的としている、竹林の湯は農産物直売所まで作った。今どの様に地域振興を発揮しているか。(竹林の湯、姨捨観光会館の再構築が先) 【観点4 立地優位性を活かした広域交流・関係人口の創出】 道の駅本来の考え方は「道路利用者のため休憩施設にして事故防止に役立てる」ことである。その機能が設置されその周りに地域の特色ある施設を設けて休憩プラスアルファを求めているのであるが今は目的化してきている。地域資源を生かした魅力的な拠点づくりと、多様な人々が関われる機会の創出が重要。①地元生産者との連携②地域文化の発信③多機能拠点化が挙げられる。関係人口の創出にはボランティア地域のイベントサポーターなどで地域活動への参加を募る、地域に関わる人々との継続的な連携、情報発信の強化などが挙げられるが、現在の千曲市では難しい。「道の駅」を指定管理者で市外からでは更にこうした地域密着型の政策は難しい。 【観点5 子育て世代を含む地域住民の” 日常の居場所” としての利便性と安心】 → このコンセプトは基本構想の理念にはなかった。これを載せたのは推進会議での意見を取り入れたものとする。「防災道の駅」はどこまで流されていくのか、目的がその都度変わっている。 全天候型の親子向けの設備は需要が増している、ただその多くは「イオンモール」など大型施設にその需要が多い、以下問題点を指摘させてもらう。①財源の制限 限られた財源を最適に配分する観点から非効率である。②建設コストが高く維持管理や運営にも継続的な費用がかかる。③対象年代層のニーズの違い0歳～12歳など幅広い年齢層を対象とすると発達段階や遊び方の違いに対する対応や遊具や空間設計が難しく利用者の満足感が得にくい。④子供の遊びをサポートし安全を確保するためのスタッフなどの確保が難しい。⑤人気の遊具の入れ替えや撤去に費用がかかる。⑥現状の施設に影響を与える。などが指摘されている。子育て支援センターの充実、白鳥園に施設の設置、今ある大型店へ補助金により設置等の検討が必要と考える。屋代SIC周辺地区の整備方針の中に「公共文化ゾーン・子供から大人まで世代を超えて集い、学び、遊び、交流できる居場所として整備すると共に子育て支援につながる施設の立地を誘導」と記載されているがこれも同じ施設ではないのか。計画では「屋内遊戯広場」は580㎡もある、しかも有料である、農産物、レストランなどの面積440㎡より多い、収益の最も高いとされる物販販売よりも面積が多いのはなぜか。子育て世代を含む子供に対しての政策は歓迎されるが2万人もいる高齢者に対する政策は減少の一途だ。	様々な面からのご意見ありがとうございます。全てのご意見やご指摘にお答えすることは難しいですが、道の駅基本計画(案)については、市の上位計画や基本構想、パブリックコメント等のご意見も踏まえ、再度検討し見直しを行います。
10	コンセプトの能書きはどこも似たり寄ったりです。簡単明瞭に「道の駅月の都千曲」を施設名にする。	道の駅の正式名称についてはまだ決まっておりません。ご意見としてお聞きします。

■対象地選定

	意 見	回答・今後の方針
11	交通インフラの不確定性と経済合理性の問題です。本計画は坂城更埴バイパス沿線を前提としていますが、全線開通時期は明確に示されていません。交通量の見通しが確定していない段階で外部集客型施設を整備することは、収支予測の不確実性を高めます。全国的にも道の駅の一定割合が赤字経営に陥っているとの報道があり、来場者数の想定未達による市負担増加の事例も見受けられます。交通量確定後の段階的検討が合理的と考えます。	現在国土交通省が公表している国道18号更埴坂城バイパス(稻荷山～塩崎間)開通後の計画交通量で試算を行っており、バイパス開通後の沿線充実につながるよう現段階から施設整備の検討を行っております。
12	屋代スマートインターチェンジ(SIC)周辺活用との決定的な矛盾 反対理由は、立地の不適切さと投資の分散です。道の駅の本来の機能である広域集客と休憩機能を追求するならば、屋代SIC付近こそが最適地であることは自明です。既に屋代SIC周辺の整備計画が並行して進んでいる中、これ以上拠点を分散させることは、投資効率を著しく低下させます。屋代SIC周辺であれば、高速道路からの直結性が高く、既存の「あんずの里」や松代・長野方面への観光動線とも合致するため、観光客の立ち寄りやすさは八幡地区の比ではありません。あえて市街地内に大型施設を建設し、生活道路の渋滞を招いてまで賑わいを演出しようとする手法は、現代の都市計画として不自然であり、市民の利便性を損なう結果にしかありません。	(仮称)屋代スマートIC周辺のまちづくりについては、まちづくり方針を策定し進めているところです。道の駅については、現計画案の再検討を行っておりますが、選地については地域防災拠点としての立地の優位性も含め八幡地区を建設候補地としております。なお、防災拠点としてのあり方や事業の採算性、地域、(住民・学生・団体等)との連携など持続可能で地域に必要な施設となるよう合わせて検討してまいります。
13	道の駅の計画案見直しの記事を拝見し、正直ほっとしています。 ・屋代インター(仮)が建設予定ということと道の駅ができとなれば誰も、近くにできるのだろうと思うはずです。利便性を考えれば当たりまえの話だと思います。千曲市を散策してもらいたいのか意図がわからない策定だと思います。八幡地区は千曲川が湾曲しているので豪雨がかった際の避難場所としても立地がよくないのではないかと個人的には思います。(ハザードマップ上では高台になっているが)防災拠点と考えるのであれば高速道路に近い方が物資の運搬も可能ではないでしょうか。より良い方を目指すべきです。 ・しなの鉄道が防災と鉄道の実証実験を行っていた。備品の運搬を考えるとその方がよい。 ・広い敷地にするのであればRVパークをつくり、車中泊OKの道の駅にして、有事の際は電源確保ができるようにする。電気だけに頼らずに薪ストーブなどを設置しておく(上田の道の駅のように普段から使用して人が集まりやすいようにする)できることはありますし、たくさん案を提供できます。私自身東日本大震災のボランティアや能登地震では団体の代表として支援に行かせていただき違う目線で支援を行っています。 ・人を寄せたいのか地域の利を取るのか。はっきりいうと後者にしか見えない施策です。将来の千曲を考えるのであれば、どう作れば千曲市の魅力をスマートに発信して、人が寄ってもらえるのかを考えるべきだと思います。地域の企業を巻き込み発信できる場所の提供をしなければいけないとも思います。魅力のある企業が多いのにすべて点です。それを繋ぐ拠点にもできるのではないのでしょうか。	

・なぜ場所が先に決定しているのか 場所の設定については一般的に計画の骨子(何を作るか、どの程度の規模か)を固めてから場所を絞り込む順序で進めるのが理想的である。 14 1 基本構想 施設の目的や必要な機能を決める 2 候補地エリアの抽出 市域全体から交通の便や人口重心など踏まえて大まかなエリアを設定 3 複数段階の絞り込み 土地利用規制や経済性を踏まえて複数の候補地を比較・検討 4 場所の設定と基本計画 最適な1箇所を設定し、その土地の形状に合わせた具体的な建物や配置やレイアウトを計画 ・施設の建設場所の考え方について 1 あらかじめ抽出した複数候補地を検討する方法 2 市域全体を対象に複数段階(ステップ)のふるいにかけて絞っていく方法 3 公募による方法 …最も適切なのは2 ・調査報告書について 令和3年の概要調査報告書は国交省の認定する「防災道の駅」の設置可能場所を示したもので、現在進めている「地域防災拠点・防災道の駅」ではない。規模・目的・内容も違ってしまっているのになぜこの報告書の場所を基本としているのか。 報告書の場所の設定は何故3か所なのか、選定した内容が不明である。千曲市全域を調査し最適地を選出すべきではないか。事前に場所を決めて調査させたのではないか、水害の少ない場所を限定するにも無理がある(地震の災害もある)。上田市の「上田道と川の駅」は千曲川河川敷にある。令和7年5月に国交省が「防災道の駅」に新規選定された。	道の駅の候補地については、令和3年度に実施した千曲市道の駅(地域防災拠点)設置可能性概要調査報告書により八幡地区を最適地といたしました。該当エリアの選定について、同調査報告書により選定したものです。なお、同調査報告書は防災道の駅だけの適地調査ではありません。
・建設予定地 基本構想の①地域防災拠点として機能する → 基本構想の「千曲市道の駅(地域防災拠点)設置可能性概要調査報告書」は国交省の認定する「防災道の駅」の設置を考えたものだ。なぜその資料を基にするのか、規模も目的も違うものをあてはめることは問題である。40pの防災機能の施設予定を見ても地域防災拠点とは思えない、予定地の隣に避難所・場所として八幡小学校がある、ここで十分機能する。 ③一般国道18号坂城更埴バイパスに接続しアクセスが良い → 「坂城更埴バイパスは国道18号坂城町南条から千曲市屋代まで延長19.2kmのバイパス。現在八幡から稲荷山まで3kmが開通し稲荷山から長野市塩崎まで2.6kmの工事が進められている。完成までの期日は不明、このバイパスがなぜアクセスが良いのか。バイパスは開通してこそアクセスが良くなるのである。問題は「場所」が先に設定されていることにある。公共施設を建設するに当たっては候補地を決定するのは最終段階である。先に候補地を決定すると問題が発生することは当然である。今まで先に候補地を決定した公共施設はあるのか。地権者に対してもどのように対応するのか、まだ計画段階なのだ。 15	道の駅の候補地については、令和3年度に実施した千曲市道の駅(地域防災拠点)設置可能性概要調査報告書により八幡地区を最適地といたしました。該当エリアの選定について、同調査報告書により選定したものです。なお、同調査報告書は防災道の駅だけの適地調査ではありません。
候補地は計画当初3箇所あったはずが1のみで進んでいる感じがします。候補地の比較選定にあたっては、利便性より住民の安心安全を最優先に行ってください。1と2は八幡小学校と八幡保育園が隣接する道路があり、通学路になっているので車の通行が増えとても心配です。バイパスができたため、抜け道として使う人も増え30km規制にも関わらず、スピードを出して通行している車が増えました。地区でも苦慮しているのにさらに交通量が増え、大型トラックの通行も予想されるとなると地域住民の安全を確保できるかとても不安です。 16	地域住民の安全確保を最優先し、車両導線も含めて道の駅基本計画(案)の見直しを行います。

■防災機能

	意 見	回答・今後の方針
17	防災拠点機能の在り方について。防災の基本は「分散配置」と「生活圏内避難の確保」です。地震災害時には、一拠点集中型よりも複数の小規模拠点が分散している方が、建物被災や道路寸断のリスクを低減できます。洪水対策については千曲川水系で遊水地整備が進められており、既存の小中学校や公民館は既に避難所指定されています。これら既存施設の耐震化や備蓄機能強化を優先する方が、費用対効果および実効性の面で合理的と考えます。さらに、本計画では災害時の車両避難を想定しながら、駐車可能台数は約100台規模とされています。市内人口規模や想定避難世帯数を考慮すると、同時多発的な避難が発生した場合に十分な収容能力とは言い難く、車両が周辺道路へ滞留する可能性も懸念されます。車社会である本市において、車両避難を前提とするのであれば、駐車容量と避難計画の整合性について具体的な検証と説明が必要です。	市が優先して開設する避難所(小中学校13校を含む)は耐震済みであり、マンホールトイレや防災備蓄倉庫など防災機能の強化に努めております。災害時の車両避難所については、現在市内4箇所(260台)を指定しており、本施設もその1つと考えております。(その他協定による車両避難所7箇所475台)
18	「防災拠点」と「道の駅」を混同する計画の不自然さ 本計画では、八幡地区の安全性を背景に防災拠点の整備を謳っています。地域の安全を確保するための防災拠点整備そのものは否定しませんが、それを観光・収益施設である「道の駅」とセットで建設することには強い疑問を抱きます。 防災拠点は、有事の際に確実に機能し、市民を守るための公共性の高い施設であるべきです。一方、道の駅は不特定多数の観光客を呼び込む商用施設であり、平時の運営には高い収益性が求められます。この性質の異なる二つの機能を一つの大型施設に詰め込むことは、どちらの機能も中途半端にさせ、結果として過剰な建設コストと、複雑な維持管理コストを市民に強いることとなります。防災機能を強化するのであれば、過度な商業機能を省いた、真に市民の安全に特化した施設として検討すべきであり、賑わい創出を免罪符にした大型建設には反対いたします。	地域防災拠点としての立地の優位性から八幡を建設候補地としております。また災害時だけでなく平常時には道の駅として地域振興や観光拠点として活用できるように計画してまいります。
19	一時災害避難室があるのですか	災害時は子どもの遊び場や物販等屋内エリアを一時避難用として開放を検討しております。
20	【施設整備の観点と導入機能】 道路情報案内、施設内トイレ、休憩スペース、駐車場など施設は道路管理者である国交省等と検討はされているのか、国交省の了承を得ているのか。防災機能の施設は避難所・避難場所と同程度の施設である、これが「地域防災拠点」なのか。 ・「千曲市第三次総合計画」の災害時に避難が可能(防災道の駅はどのようなものか、国交省の認定する防災道の駅か、それとも地域の防災拠点か、混同している) → これは八幡地区である(八幡小学校が避難所・場所に設定されている) ・救済活動や復旧・復興活動の拠点 → 千曲市役所4階の対策本部ではないのか(水害が発生しても垂直避難で市役所は安全)救済活動、復旧・復興活動とはどのような活動なのか、まさかヘリを飛ばしたり、自衛隊の駐屯地などを考えているなら計画そのものが問題。(国交省の認定防災道の駅ではない) a) 防災備蓄倉庫 この場所に物資の集配拠点としての活用を想定して200㎡の備蓄倉庫を作っても、どのようにして市内に配送するのか、橋が通行止めになるから当初の市内の避難所としての機能はできないことから、各地区にある防災備蓄倉庫の充実させることが大切である。総合計画でも「防災備蓄倉庫の充実」を載せている。(避難用備蓄品、非常食を計画的に確保することで、避難者の安全確保を図る、5か年で5千万円)	引き続き国・県など関係機関と協議を行ってまいります。防災機能などについては、参考意見としてお聞きします。なお、備蓄倉庫については市内15箇所に整備しており、また市が優先して開設する避難所(15箇所)にも整備しておりますが、川西地域は備蓄倉庫が少ないことから本道の駅に比較的規模の大きい備蓄倉庫を整備するものです。
21	防災・災害の拠点であるという側面がある以上、広いスペースを必要とすることは必要なこと。有事以外は駐車場とする、芝生の広場にすることに関しては評価できます。	道の駅基本計画(案)の見直しにおいても広いスペースの確保や防災機能についても改めて検討いたします。
22	福祉避難所としての機能 市の防災拠点として、是非福祉避難所としての機能も検討してほしい。(市内にはまだ設置されていないため)	福祉避難所については市が優先して開設する避難所(小中学校含む15施設)を福祉避難所として開設することとしています。
23	第三次総合計画のトップに「災害に強く安全で安心な暮らしができるまち」を提唱。地域防災拠点の具現化は財政課題以前の最優先課題で防災備蓄倉庫のみ(防災機能、非常用電源、災害用トイレの表現はあるがどこまでかは疑問)で、地域防災計画に防災拠点を八幡地区に整備としながら防災拠点イメージが見えない。 ・防災施設の増設スペース確保 ・千曲市地域防災拠点+近隣市町村坂北村までとの防災協力組織の具体化を計画。小規模消防署設置により川西地区災害対応に	いただいたご意見も参考に防災拠点としての在り方についても検討し、道の駅基本計画(案)の見直しを行います。
24	非常時にはここを拠点として対応するが、駐車スペースとしては、八幡小・八幡公民館・農協等の活用、収容施設としては、八幡小・八幡公民館で・農協等の活用、炊き出しスペースとしては、道の駅内各厨房・八幡公民館等の活用、等有機的に活用できるようにされたい。	いただいたご意見も参考に周辺施設等の連携も検討し、道の駅基本計画(案)の見直しを行います。

■地域振興機能

	意 見	回答・今後の方針
25	子育て世代向け機能について。計画には子育て世代を意識した機能が盛り込まれているが、その目的自体は重要である一方、なぜ道の駅でなければならないのかという点に疑問を感じる。子育て支援機能は、本来、日常生活圏に近い場所で継続的に利用できることが望ましいものであり、既存施設の拡充や地域内分散型の整備の方が合理的である可能性がある。多機能を一体化することで、結果としてどの機能も中途半端になる懸念はないでしょうか。本計画全体を通して感じるのは、「地域振興」「防災」「子育て支援」という目的が先にあり、その実現手段として道の駅という形が選ばれたのか、それとも道の駅整備が前提で、後から機能が積み上げられているのかが判然としないという点です。目的と手段が逆転している場合、施設整備そのものが自己目的化し真に必要な施策の優先順位を誤る可能性がある。まずは市として何を最優先の政策目標とするのかを明確化し、その達成手段として最適な方法を改めて検討すべきではないでしょうか。	本道の駅は防災拠点と地域振興施設として位置づけており、子育て支援機能についても市民からの要望が多いことから屋内遊具施設等の設置も検討しておりますが、いただいたご意見も参考に道の駅基本計画(案)の見直しの中で検討してまいります。
26	以上を踏まえ、①交通インフラ整備後の再評価②既存公共施設の防災機能および子育て支援機能の分散型強化の優先③財政シミュレーションおよび避難想定台数の詳細な情報公開を求めます。人口減少と財政制約を踏まえた持続可能な選択を強く要望します。	
26	「屋内遊具施設」による市民ニーズの切り捨てと財政負担 計画に含まれる「屋内遊具施設」の運用方針について。行政側は収益施設として構想をしているようですが、これは「日常の居場所」という市民向けのコンセプトと真っ向から矛盾します。近隣県で成功している道の駅(小坂田公園等)の多くは、質の高い遊び場を無料開放することで圧倒的な集客を得て、その賑わいが併設の飲食・物販に波及する仕組みをとっています。有料化すれば、市民、特に子育て世代が日常的に通える場所ではなくなります。一方で、有料施設としての競争力を維持し続けるためには、常に最新設備への更新が必要となり、将来にわたって膨大な維持管理費が市の財政を圧迫します。赤字になれば市民の税金で補填し、黒字を狙えば市民が日常使いできない。このような誰の幸せにも直結しない「出口のない計画」を認めることはできません。	本道の駅は運営事業者の独立採算運営を想定していることから、収支スキームにおいて屋内遊具施設を収益施設として位置づけていますが、いただいたご意見も参考に道の駅基本計画(案)の見直しの中で検討してまいります。
27	当該地域においては国道が一部未開通の状態であり、交通の流れが十分に確保されているとは言えません。本来道の駅は広域的な交通ネットワークの中でその機能を発揮する施設であり、主要幹線道路の円滑な通行が前提となるものです。しかしながら、現時点ではその前提条件が整っている状態とは言えず、十分な集客が見込めるのか大きな疑問がある。さらに建築予定地域には他地域と差別化できる特産品や農産物が乏しく、道の駅の運営の柱となる地域資源が十分とは言えません。多くの道の駅は農産物や特産品の販売によって集客と収益を確保していますが、その基盤が弱い状況では安定した運営が難しく、開業後に経営が行き詰まる可能性も懸念されます。交通の見通しや地域資源が十分でない中で、施設整備を進めることは結果として無駄な投資となる恐れがあります。その負担が将来的に住民に及ぶことは避けなければなりません。限られた財源をどこに活用するかは地域の将来を左右する重要な判断です。今求められているのはこうした不確実性の高い施設整備ではなく、子育て支援の更なる充実や子供たちや地域住民が学び成長できる環境作りなど将来を担う人材育成の投資ではないでしょうか。地域の持続的な発展のためにも現段階での道の駅建設計画については立ち止まり、必要性や優先順位を改めて見直すことを強く求めます。以上の理由から本計画には反対します。	集客が見込め、持続経営が可能な道の駅となるよう事業採算性についても再度検討し、持続可能な施設となるよう道の駅基本計画(案)の見直しを行います。
28	千曲市道の駅に賛成です。 集客ができて、千曲市産の農産物や工芸品などを販売できる場所ができるのはありがたい事です。ここに来ないと手に入らない、食べられない、など名物ができて、大勢の方が来てくれると良いですね。 ・道の駅に農産物加工所も設置して欲しい。 災害時の炊き出しにも利用できる。常駐の職員を置くか農家の人が作業するかは要検討。 「加工所を併設して欲しい理由」 〈JAのりんごジュース加工所〉 ・坂城加工所 廃止 ・八幡加工所 個人のブランドができない ・芝原農産物加工所 施設の老朽化と町外の人は使いづらい 〈個人で農産物加工をしている人の利用加工所〉 ・飯田市小池手造り農産加工所 安価、ロットが大きい、遠い ・飯綱町三本松農産物加工施設 安価、小ロットOK、遠い 〈搾汁機械が新しい参考にしたい〉 ・東御市味の里とうみ 少し高価、遠い 〈乾燥機が新しい参考にしたい〉 道の駅に加工所を併設している所がありますので、参考にいただき、千曲市の6次産業の為にご検討下さい。	隣接のJAながの八幡宮農センターや八幡支所等とも連携する中で、道の駅基本計画(案)の見直しの参考とさせていただきます。
29	道の駅基本計画(案)の中で、防災拠点としての役割に加え、観光や子育て世代の居場所づくりにも目を向けていること、特に屋内でも安全にそして十分に体を動かせるような全天候型遊び場の設置を検討されていることに対し、大変ありがたく期待を感じています。私自身子どもを連れて、県内外さまざまな屋内広場に足を運びましたが、リピートしたい施設とそうでない施設があると感じました。広さがない、遊具が単純で少ない、人口密度が高いといったような施設には「また行きたい」とは感じませんでした。反対に、子ども心をくすぐるようなトンネルや坂、館内を思いっきり走り回れるスペース、高さのある大型遊具、室内に広く張り巡らされたネット遊具、乳幼児が落ち着いて遊んだり本を読んだりできるスペースが兼ね備えられている施設は非常に魅力的に感じました。計画では575㎡ほどと記載がされてありました。空間を広々と有効的に使うためには、スロープや階段等で、子どもだけでも自在に行き来できるような回遊性のある開放的な空間づくりが大切だと感じました。さらに集中や創造性を育む巨大ブロックやごっこ遊びのおままごとコーナー、乳幼児が落ち着いて安全に遊べる空間や見守りカフェ、休憩室なども兼ね備えられれば魅力的な施設に近づくのではないかと思います。近隣の市はもちろん、県内には魅力的な子どもの屋内施設が十分ないので、子育て世代の注目度や期待は高いと思います。予算は限られていると思いますが、多くの子どもたちや子育て世代が「また来なくなる」「1日楽しめる」「安心できる居心地の良い」と感じられる施設になるよう計画を進めていってほしいと思います。また、市内はもちろん、市外からの集客、そして「また来なくなる」魅力ある施設にするために、県外に多数ある様々な全天候型遊び場を調査していただけたらありがたいです。(山形県:コパル げんキッズ, 福井県:OSORA さかいキッズパーク, 新潟県:ルナつばめ)	いただいたご意見については、道の駅基本計画(案)の見直しの参考とさせていただきます。

30	農業実態を無視した「農産物直売所」の非現実性 収益の柱とされる「農産物直売所」の持続可能性について。千曲市の象徴である「あんず」は、収穫・販売期間が年間でわずか数週間という極めて限定的な作物です。既存の「あんずの里物産館」が、旬の時期以外は集客に苦戦しているように見えます。こちらについては行政はどう捉えているのでしょうか。供給体力が低下している中で大規模な直売所を建設しても、棚を埋める農産物が不足し、閑散とした施設になることは火を見るより明らかです。現状の農業体力に見合った施策を検討すべきです。ハコモノ建設は農業支援の解決策にはなり得ません。	いただいた意見も参考に「果樹」「野菜」「花卉」など、JAや農業者等と改めて協議を行いながら、道の駅基本計画(案)の見直しを行います。
31 ・ 32	〈施設面積について〉 ・収益可能な振興施設の農水産物販売面積は160㎡(コンビニクラス)より拡大240㎡以上必要 ・レストラン・カフェ面積も再考するべき ・バックヤード込で160㎡(約60坪)では実効40坪に満たない不適切な規模で机上の空論に等しいもの。持続可能な収益は運営費収益でしか得られません。コンビニと同じです。 ・屋根付きの多目的・多用途対応施設をフル活用し、常に来場を促す仕組みを作り、365日稼働することが必要です。 ・南側駐車スペース増、農産物・惣菜加工所用地(複数)。JAとの協力体制の充実を図る。 〈施設導入機能について〉 ・コーラ施設が残り景観台無し、店舗等の施設が奥すぎる原案では、採算確保も難しく新たに道の駅を作る意義がありません。 ・施設面積は当初の3ha+JA機械化センター敷地を加える ・敷地の埋め立ては現状の道に合わせ段階的に傾斜地に整備する(事業費の削減) ・駐車場部分は出来るだけバイパスと同じ高さとするのが良い、施設エリアは一段低くし芝生広場はさらに一段低くする。 ・消耗品・必需品・農家の困った(お金にならない)もの、鮮魚店(角上魚類, SYUN-GROUP)、ロイズ、飲食店(地元人気飲食店で集積、軽食はマスト) ・バス、タクシー乗り場考慮(公共交通拠点) ・駐車場から、また各施設からの導線にはアーケード(屋根付き)を設ける ・最奥に諸施設を配置するなど、見つけにくく入りにくい魅力がない道の駅となっている。 主要道路から目に付く場所(中央)にメイン建物を配置するものである。 ・具体的フロア計画図作成願います。また、銀行、郵便、JA、行政業務がワンストップで可能なサービス取り込む	いただいたご意見も参考に道の駅基本計画(案)の見直しの中で再検討いたします。 (売り場やバックヤード、飲食コーナーの面積。施設の規模や配置。核となる有名スイーツや鮮魚等の物販など)
33	千曲市に道の駅ができるのであれば、来訪者向けの千曲市の特産品に加え、地元住民向けに近隣の道の駅に並ぶ商品を参考にしたり販売をしたらいかがでしょう。売れ残りの商品に関しては、お得な価格で戸倉上山田温泉の旅館にまとめ買いしてもらったり、朝市での販売も可能だと思います。子育て世代向けの施設として、国内外の木のおもちゃの他、地域ならではの自然や文化に触れることができるようなものを、おもちゃコンサルタントに相談してはいかがでしょうか。	道の駅の運営の中で参考とさせていただきます。
34	地元農業との連携はできてるのでしょうか。道の駅には当然地元の産物が目玉商品となりますが、農協との話し合いは計画に乗ってこないですがいいのでしょうか。	道の駅推進協議会の委員として、ながの農協様も参加しご意見をいただいておりますが、今後も協議を継続しながら道の駅基本計画(案)の見直しを行います。
35	近くに農産物直売所ができるのは歓迎だが、バイパス完成後の交通量考えると黒字経営を続いているのか疑念が残る。千曲の未来を生きる子供たちに負の遺産を残さないよう慎重に検討すべきと思う。 屋内の遊び場が必要と今声をあげている子育て世代は、道の駅が完成する頃には我が子が成長し必要なくなる。先行き不透明な道の駅を作るより、既存の施設を迅速に遊び場として活用することに税金を使うべきではと考える。	道の駅基本計画(案)の見直しの中で、集客が見込め持続経営が可能な道の駅となるよう、事業採算性についても再度検証いたします。
36	物販ゾーンの160㎡という広さは少ない気がする。地域の野菜果物を販売することを考えると、市として何をどのように売るのが見えていない。飲食に関しても道の駅での需要は大きいのではないかと考えますが、そのスペースとしての広さが280㎡、それは適当なのか。屋内遊具施設の配置は必要のように思えますが、本当にあった方がいいのか、検討する余地があるのではないかと考えます。	いただいたご意見も参考に施設の各面積・内容についても更なる検討を行ってまいります。集客が見込め、持続経営が可能な道の駅となるよう事業採算性についても再度検討し、道の駅基本計画(案)の見直しを行います。
37	屋内遊具を併設した施設 現在市内には室内で利用できる子供向け大型遊具がないので、雨の日でも市内市外の人が遊びに行ける施設が欲しい。また全ての子供が楽しめるようユニバーサル遊具を取り入れてもらえると助かる。飲食や買い物を楽しめる店舗もあると経済効果も上がると考えます。	いただいたご意見も参考に導入機能の内容についても更なる検討を行ってまいります。
38	ベビーコーナー等について お客様用としてある程度のお客は必要だが、地域住民がここを活用して子育てをするとは思われない。既存の保育園・公園等を主力に考えた方がいいのではないかと。また、いろいろなことに活用できる建物(小講堂等)、と芝生コーナー等は必要だと思います。その活用の1つとしてベビーコーナーを考えたらいいのではと思います。	いただいたご意見も参考に導入機能の内容についても更なる検討を行ってまいります。
39	イオンモール須坂の室内遊具が人気だが、高速を乗って行かないといけないうのと、普段混んでいるので道の駅にもイオンモール須坂みたいな室内遊具がほしい。	いただいたご意見も参考に導入機能の内容についても更なる検討を行ってまいります。
40 ・ 41 ・ 42	・子ども連れで楽しく遊べる場所を広めにとり又遊びに来たいと思うようにしてほしい ・猛暑の季節などは暑さ避難場所としても利用できるようにしてほしい ・地場産農産物等の売り場など地域の皆さんが求めるものを置いていただきたい	いただいたご意見も参考に導入機能や販売内容についても更なる検討を行ってまいります。
43 ・ 44	・暑さ寒さの(交流)一時利用もほしい ・千曲市農産物の季節に販売したらと思います	クールシェアスポット(暑さ寒さ対策)としての利用も検討します。農産物販売についてはご意見としてお聞きします。
45	地域住民が使用でき商品を作る「キッチン・加工」スペースを作ってほしい。予約申請で有料で利用できるようにしたい。また、災害時は炊き出しなどの拠点として使用するようになりたい。	隣接のJAながの八幡宮農センターや八幡支所等とも連携する中で、道の駅基本計画(案)の見直しの参考とさせていただきます。

■その他の機能・施設

	意 見	回答・今後の方針
46	シャワー室があれば遊びも後始末がよいと思います	参考意見としてお聞きしますが現状ではシャワー室の整備は考えておりません。
47	催事・緑地広場にアクテリオ・タダノ等市内企業とのコラボで各種建設重機の常設や体験コーナーを設ける。その他にもモキ製作所等とキャンプ・サウナ体験コーナー設置を	常設は考えておりませんが、イベントの開催など道の駅の運営の中で参考とさせていただきます。
48	・千曲市と周辺には長距離トラックが休める場所があまり無いので、十分なスペースを確保した方がよいと思います	いただいたご意見も参考に施設の各面積・内容についても更なる検討を行ってまいります。
49	・道の駅はどこも同じような土産物が多く、あまり魅力を感じません。なるべく他では売っていないような商品を中心に販売していただきたい	いただいたご意見も参考に販売の内容についても更なる検討を行ってまいります。
50	・食事については「道の駅雷電の里」が安くて美味しいので参考にしていきたい	参考にさせていただきます。

■施設配置

	意 見	回答・今後の方針
51	〈モデルプランについて〉 アクセス重視タイプとすべきではないか。入りやすい配置がお客様の再訪問を誘う八幡小・八幡保育園の通学路安全をとりやすい。(視界的理由)	いただいたご意見も参考に出入りする市道についても再検討する中で道の駅基本計画(案)の見直しを行います。
52	・周辺道路整備方針を具体的に示すことが必要。 ・中道線利用は地元は受け入れない(学童対策など)、非常時以外は利用しない。 ・上田方面からの入口は大道線信号からガソリンスタンド東側側道拡幅、ガソリンスタンド一体で出入口検討願います。 ・コカ・コーラ工場、JA八幡等隣接地交渉を踏まえた内容でなければならない。大道線拡幅・取付道路の改良なし、接続用地もなく、期待していたコカコーラ施設の移転もない。上田方面から来る車はガソリンスタンド東側のコカコーラの一部を大型車が通れる道路とし、大道線とバイパスの交差点を改良するのが一番良い。 ・市道大道線からの南ゲートを設ける。車の出入りの安全確保 ・東側の八幡小学校側の道路の改良によりJA施設を道の駅敷地内に誘導し、集約によりJA機能の向上・組合員サービスに繋げる。 ・立地上道の駅の場所や入り口が解りにくいため、大立看板を掲げ大きく月(黄色)を描く月が映えるように周りを紺(夜景)で描きすすきや団子等描くサイン板が欲しい。そこに月の都千曲を入れる。	様々なご意見をいただきありがとうございます。道の駅基本計画(案)の見直しを進める中で、道の駅への出入りする道路については、市道大道線からの利用も含め検討いたします。また、コカ・コーラ敷地やJAとの連携についても協議してまいります。
53	道の駅への出入りに関しては、北側の中道線からの出入りは通学路であり、地域住民の生活道路であることを踏まえ、バイパス側からの出入りにしてほしい。 駐車場は一方通行になるように設計できないか。駐車台数も必要ですが、駐車スペースの候補も考えていただきたい。	道の駅基本計画(案)の見直しを進める中で、市道中道線の出入りの有無についても改めて検討いたします。駐車場については参考意見としてお聞きします。

■費用関係

	意 見	回答・今後の方針
54	7 概算事業費の算出 7・1 イニシャルコスト(初期費用) 上田道と川の駅は概算で28億円(正確な数字は把握してません) 八千穂高原道の駅基本計画は21.24億円(県の施設を除く) 道の駅まるこ基本計画は約17.65億円(面積19,500㎡) これらを参考にしても1,663,200千円は安すぎる、第三次総合計画実施計画には1,560,071千円と記載されているが、令和4年3月作成の実施計画であり、この時点では計画も提示されていないければ、国交省の認定する「防災道の駅」であった。(国交省に認定する「防災道の駅」は「ハードルが高いため地域振興施設と地域防災拠点の設置を考える、令和5年6月定例会で市長の発言で変更になる) この実施計画の数字に酷似している。合わせているのではないかと考える。 7・3 本事業での活用が想定される交付金(87p) 道の駅建設において、国交省が主に交付する支援は「社会資本整備総合交付金」だ。 ・基幹事業(道路施設など)駐車場、休憩施設、24時間利用可能なトイレ、道路情報提供施設 ・効果促進事業(防災機能)非常用電源、防災資材倉庫、災害対応トイレなど防災拠点化に資する設備。 こうした交付金が提示されていないがなぜか、道路管理者である国交省との交渉は行っていないのか、単独型の道の駅を進めるのか	国の補助金(交付金)については、地域未来交付金(新しい地方経済・生活環境創生交付金:内閣府)の活用を想定しています。(現基本計画案P86) イニシャルコストについては、現在の建築単価や物価上昇を加味し、最新の指標に基づき総事業費を算出していますが、用地費や周辺道路等の整備費は含まれていないことから、道の駅基本計画(案)の見直しの中で改めて試算してまいります。
55	8 財政面について 基本計画書の85pに初期投資として16億6,300万円が載せてあるが、屋代地区開発事業、屋代スマートインター、国スポに対応する施設費(道路新設・拡幅、体育館改築)小学校の改築(上山田・治田小学校は急ぐ)などが重なっている。財政面が心配である。 令和7年度3月定例会で基金を作る議案が提出されている。基本計画が出てから基金を設置するのか。毎年基金に繰り入れなければならないと、財源が不足している今、市民が納得できるか。老朽化している「治田小学校」「上山田小学校」の改築を優先すべきではないか	道の駅基本計画(案)見直しの中で整備スケジュールについても改めて検討いたします。また、既存施設については公共施設等総合管理計画に基づき適正管理と有効活用の推進に努めてまいります。

56	8・2 民間事業者の運営収益費 収入の主なものは土産、特産品、農水産物販販売、飲食提供が主体であり農産物の直売所を併設している駅の8割で地元産の野菜が主要な販売品目となっている。特に野菜は売り上げの半数以上を占めている。売り上げは野菜・果実・農産物加工品だ。千曲市は過剰と言えるほどのスーパーが立ち並び、野菜・果実・農産物加工品を取り揃えている。地元産のコーナーを設置して販売しているし千曲市産直売所もある。千曲市は前にも述べたが農業の生産が少ない、また農産物加工品においてもかつては「千曲ブランド」製品を推進していたがその政策も無くなった、近くにある「竹林の湯」に直売所の場所を設置したが閉鎖状態が続いている。閑散期は並べる農産物も少ないので姉妹都市などと連携して売り上げのアップをはかればよいという政策もあるが、スーパーなどはそれを実施しているし、新たに参入するには困難が生じている(屋代駅ウエルカムステーション参考) 飲食提供においても国道18号に集中しておりこの場所に設置しても動線が悪い、姨捨観光会館のレストランは撤退した、あんずの里物産館も赤字経営が続いている。また地元野菜としてコンビニ、ドラッグストアなどにも多くみられ買い物に不便さはない。 事務所等での売り上げもあるが屋内遊戯場も有料であれば利用客も少なくなるだろう。収入の金額359,583千円が提示されているが上記の問題等を把握してのものなのか疑問。令和4年の全国道の駅連絡会の調査では既存の道の駅の販売金額は242,280千円である	周辺施設との差別化ができるよう運営事業者と連携を行い、持続可能で市民にとって魅力ある施設となるよう道の駅基本計画(案)見直しの中で検討してまいります。
----	--	---

■その他

	意 見	回答・今後の方針
57	屋代にインターができるのであれば物産館と古墳を改良すべき。費用を抑えつつ最大限の施策を打ち出し市民の子供の未来を明るくすることに心血を注いで頂きたい。市議の方の今回の意見は賛成ですが、反対をするだけでどうすれば良いかを出てこないのであれば民間の我々の意見をもっと反映させてまとめるべきです。 地域のイベントに携わらせて頂いている身として不安でしかないです。繰り返しますが案と実現するために何をすべきか提案できます。地域の明日を見るのではなく未来を見て決めていただきたい。乱雑な文章になっていましたら申し訳ございませんが、移住者として千曲市の魅力は感じていますが施策に関して子供が将来千曲市から出て行っても帰ってきてくれと言えないです。	いただいたご意見も参考に道の駅基本計画(案)の見直しを行い、将来にわたり持続可能で地域に愛される施設となるよう進めてまいります。
58	〈駐車場とトイレ〉 車椅子の医療ケア児がいるので、車椅子用駐車場は後方に車止めや看板等がないと助かる。(スロープ車が利用できないため)また、車椅子用トイレもサービスエリアのように折りたたみケアベッドがあると非常にありがたい。	身障者用駐車場や多目的トイレについて、いただいたご意見も参考に検討いたします。
59	屋外施設は、熱中症・豪雨・強風・雪真夏・真冬・台風等活用頻度は低くなり使用期間が限られるので大きなスペース確保は検討が必要。季節や天候によって来場を妨げる施設は極力抑える	いただいたご意見も参考に基本計画(案)の見直しの中で検討いたします。
60	計画段階から住民協力参加できる仕組みづくりの配慮が必要。もっと地域住民側を向く必要がある。地元説明会も行われず住民への説明不足	道の駅推進協議会(地元区長等も委員)や道の駅推進期成同盟会等のご意見もいただく中で道の駅基本計画(案)の見直しを行います。
61	基本構想段階で提案されたパブコメに対しての明確な回答がない。今度も形式的にパブコメを実施するのではないかと危惧している。	道の駅基本計画(案)の見直しがまとまりましたら改めてパブリックコメントを実施します。(基本構想のパブコメに対する回答は市HPで公開しています)
62	計画の入口であるべき「持続可能な計画」があまりにも杜撰です。	持続可能な計画となるよう道の駅基本計画(案)の見直しを行います。
63	サービス開始時期を明確にすること、周辺交通量、車両速度等マイナスイメージ払拭が大切	いただいたご意見も参考に道の駅基本計画(案)の見直しの中で整備スケジュールについても改めて検討いたします。
64	nの標記でなく基本計画策定年度令和7年から竣工年度を明記して逆算で事業実施の流れを明記する。	
65	主たる顧客は地域住民です。観光客ではありません。リピーターを無視したビジネスはありません(慈善事業除く)	核となる商品等の導入やサウンディングでの提案も参考に、集客が見込め、持続可能な施設となるよう道の駅基本計画(案)の見直しを行います。
66	需要予測(P36～P37)の環境下で勝ち組に入るために何をしなければいけないのかが大切。地域に欠落しているもの、あるいは絶対的な競争力あるテナント招致が必須です。	
67	立地適正化計画の準誘導区域として地域活性化の起爆施設の企業店舗(角上魚類・無印等)を誘致して交流人口増やし賑わいを作り出す。	
68	収益性に乏しく、中でも運営費収益(P89)の裏付け曖昧で、交通量をもとに算出した数字で何を売り込むのかが後回しになっている。	
69	コンセプトに合う魅力のある方策で地元民はもとより来訪者のリピート率を上げる施設作りを目指す、持続可能な施設＝黒字化にはサンディング回答尊重し収益確保が第一	いただいたご意見も参考に運営事業者が決まった段階で協議してまいります。
70	先日、県外の道の駅で食事をしようとしたところ、朝は9時にならないと開かず夜は6時に閉まってしまい食事を摂ることが出来ませんでした。千曲市が計画している道の駅ではもう少し時間を延納した方が良いと思う	
71	道の駅の開設趣旨として、 1. 地域住民の福祉・特に高齢者の生きがいある活動の場 生きがいに繋げる場 2. 日本遺産 月の都千曲、特に「姨捨」の土産コーナー 3. 戸倉上山田温泉始め千曲市内観光の土産コーナー 4. 非常災害時の効果的な中心ステーション(公民館・小学校・農協等との効果的活動)「いざというときここに行けば安心」の道の駅	道の駅基本計画(案)の見直しの中で、基本理念やコンセプトについても検討中ですが、参考意見としてお聞きします。

72
～
82

1. 市民からどのような要望があったのか
(1)市長の公約か
(2)千曲市西部地区道の駅推進期成同盟会の要望か
○なぜ検討委員会を設置しなかったのか
○サウンディング調査、基本構想業務委託について
 民間の意見を聴く前になぜ国・県・市で設置の可能性を検討しなかったのか。
 防災道の駅の調査報告書である『千曲市道の駅(地域防災拠点)設置可能性概要調査報告書』の成果を基に基本構想を策定したのか。
○経過について
 公共施設の建設にあたっては①市民からの要望や必要性があるのか②検討委員会などを設置し調査・研究する③国交省など関係機関と検討(一体型の場合)④国交省など関係機関を交えて計画作成(公表せず)⑤国交省など関係機関の了承を得る⑥基本計画策定・公表、パブコメなどで意見募集⑦数力所の場所の設定⑧実施計画といった手順を踏み進めるべきではないか。なぜ場所を先に決めたのか。関係機関との検討無しで計画作成したのか。検討会を設置しないで推進協議会を設置したのか
○類似した施設について
 あんずの里物産館や姨捨観光会館、竹林の湯などの施設の改善が優先ではないか
 屋代SIC周辺地区の交通拠点ゾーンは道の駅ではないのか

千曲市地域防災拠点・道の駅基本計画について
はじめに
■地域防災拠点・道の駅整備に向けて
表1 これまでの取組
1.2 本施設の位置付けと必要性
1.2.1 (2)第三次千曲市総合計画 (3)第二次国土利用計画(千曲市計画) (4)千曲市都市計画マスタープラン (6)千曲市復興計画 (7)地域防災計画
1.2.3(1)地域防災拠点・道の駅推進協議会
○交通量調査
一般的に交通量の基準はないが概ね10,000台が良いとされている。
○導入予想
日常的な買い物等を目的とする機能だけでは顧客を獲得することは難しい。
道の駅の利用者は半数以上が地元住民であり、休日や観光シーズンは広域からの観光客が主役となる傾向がある。地元住民の利用がなければ成り立たない。道の駅の本来の目的を考えていない。屋内遊戯場などは前項で述べたが問題点が多い。

【結論】
「道の駅」は目標が変わりすぎている。基本構想、基本計画もその都度内容が変わっている。もう一度原点に立ちかえり必要なのか、必要ないのかを検討する必要がある。一体化を目指すのであれば、道路管理者、関係者等による検討を行っていただきたい。地域防災拠点・道の駅は問題点が多い、市民に直接説明し、市民からの意見に対してしっかりした検討を行った上で考えていただきたい。基本計画の説明会を市民に対して開催を求める。よって、今回の基本構想、基本計画も白紙に戻すべきである。

様々な面からのご意見ありがとうございます。全てのご意見やご指摘にお答えすることは難しいですが、道の駅基本計画(案)については、市の上位計画や基本構想、パブリックコメント等のご意見も踏まえ、再度検討し見直しを行います。